

「一人」になる恐怖

高三

私は、小学生の頃、いじめを受け、人と接するのが怖くなり、一人でいることが多い時期がありました。「またあいつにいじめられる。」「もしかしたらこの人は、あいつと仲がいいのかも。」「と考えているうちに、見えている人全てがいじめをしている人と仲が良く、自分をいじめようとしているのではと思うようになり、私は、同級生から距離をとるようになりました。信じられる人がいない、そのときの気持ちは、とても辛いものでした。

でも、私に声をかけてくれた人がいました。「だいじょうぶ？」とか、「気にするなよ。」と私を励ましてくれました。たった一人の言葉でしたが、私はとても嬉しかったです。その人は、友達を紹介してくれたたり、遊んでくれたりと、私から「一人」でいる時間を無くしてくれました。

「一人」でいるときの辛さは、それから感じなくなり、人と接する恐怖も少しずつ消えていきましました。今の私がいるのは、あのとき、あの人が声

をかけてくれたからだと思います。もし、誰も声をかけてくれなかったら、私は学校に通えていなかったかもしれません。

私は、話しかけてくれる「誰か」がいることが大切だと思います。自分を気にかけてくれる、心配してくれる人がいる、その思いだけで、立ち直れる人もいるのです。泣いている人、落ちこんでいる人に声をかけてみる。いじめを受けている、いじめられている人を見た。そのときには、いじめを止める、相談にのるなど、その行動が、人を救うことのできる手段の一つだと思います。私も、調子が悪い人や落ち込んでいる人に積極的に声をかけています。「一人」になる状態にしないようにすることが大事なのです。

今、そのような状態の人が近くにいるならば、まずは声をかけてみる。それだけでその人の人生は大きく変わるかもしれません。「一人」ではないという「安心」を与えることが、私が考える本当の優しさだと思います。